

持続可能で創造性あふれる 消防を目指して



浜松市消防長 鵜飼 孝

浜松市は、静岡県西部にあり、東京、大阪の2大都市のほぼ中間にあたり、太平洋ベルト地帯においてもその中央部に位置し、中部経済圏の中心となる名古屋へ約109km、県都静岡市へ約77kmの近距離にあります。

市域は、東西約52km、南北約73km、総面積は1,558.06km²と広大で、市の南北を天竜川が縦断し遠州灘へと注ぎ、西端には浜名湖を臨み、天竜川中流域の中山間地、扇状に広がる下流域の低地、河岸段丘の三方原台地と浜名湖沿岸の丘陵地から形成されています。

うなぎ、みかん、浜松餃子などの全国に認められる食資源、浜名湖をはじめとした観光資源、徳川家康公にまつわる歴史資源、ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野にてアジアで初めて加入し、吹奏楽やピアノの分野で国内外をリードする音楽環境など、国内外に誇る強みや魅力を持っています。

浜松市の歴史は、今からおよそ1万8千年前のものであると推定され、本州最古の人類化石として知られる「浜北人」の人骨が発見されています。正式に「浜松」という地名が登場するのは、室町時代であり、それ以前の鎌倉時代の紀行文には「はま松」、奈良時代の木簡のひとつには「浜津」という文字が記載されています。戦国時代には東海道の宿場町として賑わっていた引馬（曳馬）に城が築かれ、城下町を形成、後に家康公がその西側に浜松城を築き、近世の浜松城下町が誕生、歴代城主により拡充されていきます。そして廃藩置県により浜松県が置かれた後、明治9年に静岡県と合併、1911年に市制施行の条件である人口3万5千人を超え、浜松市が誕生しました。その後は、戦前戦後の飛躍的な工業の成長を経て、平成17年に12市町村の合併により新「浜松市」が誕生、平成19年には政令指定都市へ移行しました。

浜松市の象徴する言葉として「やらまいか」という方言があり、これは「やってみよう」「やってやろうじゃないか」を意味し、新しいことに果敢にチャレンジする精神を表します。これを合言葉に音楽や、自動車産業、光技術産業など世界を代表する企業を輩出し、今なお成長を続けています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済や市民生活が甚大な影響を受けつつも、消防行政サービスの着実な推進、充実・強化のため、いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくりをめざし、諸施策の着実な推進を図っております。

加えて、当市は令和元年10月に「デジタルファースト宣言」を行い、デジタルの力を生かした持続可能な都市づくりの推進を掲げ、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大に端を発した「デュアルモード社会」に対応できるよう、消防行政運営におけるデジタル技術活用の推進に取り組んでまいります。

これからも、困難な状況を「やらまいか」の精神で乗り越え、市民の安全・安心のため、さまざまな消防需要に対して順応することで、創造性あふれる消防を目指してまいります。